THE MOMOKO MUKOFUJIWARA ORGAN WORKS SPRING RECITAL 2027 Vol.7

向藤原百子
オルガン作品展 Vol.7
～作曲家のオリジナル楽曲でお届けする～

ORGAN RECITAL



All works composed by Momoko Mukofujiwara
-A special solo performance by the composer

プログラム
全曲作曲：向藤原 百子 （作曲家本人による演奏）
アリアとフーガ ヘ長調 ［関西初演］
プレリュード、インテルメッツォとフーガ ハ短調
フォーレの主題によるフーガ ハ長調
幻想曲とフーガ ト長調
その他

Program
Aria and Fugue in F Major [premiere]
Prelude, Intermezzo and Fugue in C Minor
Fugue on a Theme of Fauré in C Major
Fantasia and Fugue in G Major
...and more

申込用webフォーム

2027．3．20(SAT)14:30 開演（14:00開場）

会 場　宝塚ベガ・ホール　阪急宝塚線　清荒神駅徒歩１分
兵庫県宝塚市清荒神1丁目2番18号

入場料
全席指定

一般：前売券 4,000円/当日券4,500円
学生：前売券 1,000円/当日券1,500円※
宝塚市文化財団友の会：2,800円※
65歳以上の方：1,000円（先着50名様）※
(※窓口にて各種証明書をご提示ください)

トークショーゲスト：
京谷政樹氏



チケット購入先　Google Form / 宝塚ベガ･ホール / 宝塚ソリオホール

問い合わせ先　Tel.　090-9399-0356（カキゾエ）
Gmail：premomo1219@gmail.com （宝塚ピアノ･オルガン会）

主催 ：宝塚ピアノ･オルガン会　　後援：クラブファンタジー（神戸女学院大学音楽学部同窓会）

Profile

神戸女学院大学大学院　音楽研究科音楽芸術表現専攻修士課程修了。修士号(音楽)を修める。宝塚アーティスト協会会員。

これまでに、ピアノを二宮則子、和声法対位法を下石坂徹 、作曲を檜垣智也、北原英司、田中久美子、下石坂徹 、河合摂子、なかにしあかね、オルガンを大木麻理の各氏に師事。大学院修了後は、オルガンの研鑽を積む。第87回独立展アートナイトコンサートにソロ出演。現在、東京、宝塚を拠点に活躍中。宝塚では年間複数のソロコンサートを開催し、毎回初演を発表。

主要作品

ピアノ・ソロ曲	山の小径変奏曲
	ピアノのための小曲
	Christmas tree
2台ピアノ曲	組曲『ギャラリーにて』
弦楽四重奏曲	弦楽四重奏　ロ長調
オルガン曲	ファンタジーとフーガ
	プレリュード間奏曲とフーガ
	フーガと変奏
歌曲	さざなみのオルゴール
	佐藤智美の詩による連作歌曲



Momoko Mukofujiwa

向藤原 百子

Composer　作曲家

ごあいさつ

大学院修士課程を修了して以来、私は作曲技法のひとつである対位法の研鑽を積んでまいりました。この度、その探求の歩みを進め、地元の宝塚にて２回目となる自作楽曲のリサイタルを開催できる運びとなりました。今日まで多大なるご支援を賜りました皆さま方に、心より深く感謝申し上げます。

今回のリサイタルでは、私の創作の軸としている対位法を駆使した、フーガ4曲を中心に演奏いたします。パイプオルガンはその複雑な構造と高貴な音色によって、フーガの緻密な構成を最大限に引き出す最適な楽器です。古来より作曲技法の最高峰とされるその響きをご堪能いただければ幸いです。

また、本編終了後にはゲストとして京谷政樹氏をお招きし、アフタートークショーを開催いたします。楽曲に込めた精神や創作の背景を紐解く、貴重な機会となれば幸甚に存じます。

本公演が、皆さまの心に深く響く至高のひとときとなりますよう、ご来場を心よりお待ち申し上げております。

使用楽器:スイス・クーン社製パイプオルガン(1981年製)
(手鍵盤2段/24ストップ)

<Guest Profile>

京谷政樹氏

チェンバロ教師/奏者。

音楽学者を志し大阪音楽大学音楽学専攻へ入学。

大学在学中に、必修科目でチェンバロと出会い、英国王立ウェールズ音楽演劇大学古楽科にて、チェンバロと通奏低音を学ぶ機会を得る。

大阪音楽大学大学院 音楽学研究室修了。修士号(音楽)を修める。チェンバロの魅力に取り憑かれていった大学院修了時、母校にて、チェンバロ科目の助手募集があり、以降の人生を、チェンバロ教師/奏者として過ごす事となる。

現在は、大阪音楽大学講師として、チェンバロおよび通奏低音の演奏、クラヴィコードを用いた前古典派/古典派の作品の演奏、モダン楽器(管弦)を用いたバロック期の室内楽の演奏などの指導にあたっている。

演奏家としては、歴史的な演奏習慣に基づく鍵盤音楽の演奏(ソロ)をライフワークとする一方、室内楽も得意とし、これまでに数多くの演奏会に出演。